

# 五光発條

# 海外で車向け生産強化

## インドネシアに工場建設

精密ばねメーカーの五光発條(本社・横浜市瀬谷区、村井秀敏社長)は、海外拠点で自動車関連向けの製造を強化する。アセアンで伸長する需要を捉えるため、二輪・四輪向けばねを製造するインドネシア工場を建設しており、今年9月からの操業開始を目指す。タイにおいても、従来より大径のばねを生産できる新コイルングマシンを導入し、自動車向けの対応力を高める。インドネシア工場の設立で海外はベトナムを含む3拠点体制となり、一段の販売増を図る。今後5年間で連結売上高を2014年2月期実績から約3割増の30億円まで伸ばす計画。

## 売上げ3割増計画 今年後5年間

同社は従来、デジタルカメラやOA機器関連など弱電向け精密ばねを製造してきたが、近年、東南アジアでの日系メーカーの自動車生産増を受けて、関連需要の捕捉に乗り出している。91年に設立、03年に完全子会社化したゴコースプリング・タイは、11年に自動車

向けばねを製造する第3工場を建設した。インドネシアでは昨年9月に現地法人「ゴコースプリング・インドネシア」を設立。現在、工場建設を進めており、今年9月に操業を開始する。敷地面積

は1130平方メートル、建屋1階を工場、2階を事務所とする予定。生産設備は、タイを中心とした他拠点からコイルングマシン30台を移設する。人員体制は20人でスタートし、19年に120人程度まで

増員していく見通し。インドネシア向けはこれまでタイで生産してきたが、旺盛な自動車関連需要に対応するため、現地工場を設ける。同社のばね製品は径2mm以下がほとんどだったが、今期中にタイ

に新規設備を導入することで、3〜4mmまで加工領域を拡大。自動車向けでの受注増につなげる。タイで製造ノウハウを蓄積し、今後2〜3年をかけて、インドネシアなど他拠点にも横展開する考え。自動車向けに関して、現在は車載設備の部品用などがメインだが、今後は重要保安部品も含めて伸ばしていく可能性がある(村井社長)としている。中長期的には、30年に連結売上高50億円と、前期実績比2倍以上の規模を目標に掲げる。

## 業総本橋 3つのフル推進継続

### 上期方針「みらい活動」充実化

#### 説明会

管工機材の流通大手、橋本総業(橋本政昭社長)は17日夕、東京・半蔵門のクランドアーク半蔵門で、2014年度上期方針説明会を開催し、仕入れ

先企業などから約170人が参加した。冒頭、日本総合研究所の藤井英彦理事が、「昨今の経済情勢と今後の展開」海外リスクとアベノミクスの行方

」と題した講演を進め、日本や欧米、新興国の直近の経済情勢などを説明した。講演終了後、上期方針発表会が開催され、橋本政昭社長が同社の



仕入れ先企業などから約170人参加

近況や上期および中期的な経営方針を説明し

中であいさつに立った橋本社長は、「基本理念

たほか、営業本部や商品グループ、管材など各部門の担当役員による部門別の方針も発表された。会の途